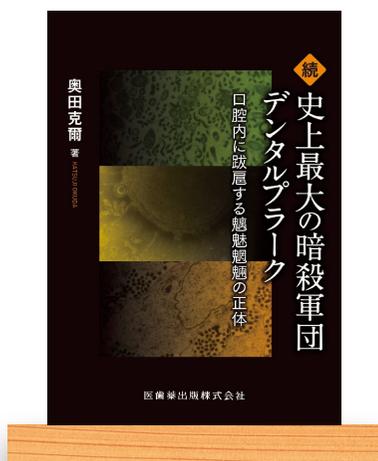


口腔と細菌、全身疾患との関係を解き明かし、歯科医療の「次の役割」を示す！



続 史上最大の暗殺軍団デンタルプラーク
口腔内に跋扈する魑魅魍魎の正体
 奥田克爾 著

A5判/140頁 定価：3,300円＋税
 医歯薬出版（2019年1月）

(公社) 日本歯科衛生士会会長
 評・武井典子 (歯科衛生士)



歯科衛生士法が制定され70年が経過しました。近年では、日本の歯科衛生士の就業者数は12万3千人を超え、いまや日本は米国に次ぐ世界第2位の「歯科衛生士大国」となりました。この背景として、少子高齢化や疾病構造の変化に対応して、歯科衛生士業務を保険診療として評価するしくみを、国が整えてくれたことが大きな要因と考えています。

歯科衛生士のおもな就業場所は、歯科診療所が90%以上ですが、いま、歯科診療所の歯科衛生士の果たす役割が大きく変化してきています。歯科診療所は「かかりつけ歯科医」として患者さんの生涯にわたる継続的な口腔健康管理を担っています。齲蝕や歯周病の重症化予防管理により、生活習慣病のリスクを低減し、健康寿命の延伸に貢献することが重要になっています。そう

したなか、歯科診療所の受診者の45%以上が65歳以上となり(厚生労働省, 患者調査, 2017年), 歯科診療所の歯科衛生士も全身管理や医科歯科連携が必要となりました。さらに、地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、歯科診療所から地域に出て、多職種と連携しながらその専門性を発揮することが求められています。今後ますます、在宅療養者や要介護高齢者の口から食べる幸せを支援して低栄養や誤嚥性肺炎を予防するなど、口腔衛生・口腔機能管理を担う歯科衛生士の役割に期待が高まっています。

このようななか、2016年に発行された『史上最大の暗殺軍団デンタルプラーク』につき、その後の歯科医療を取り巻く急速な変化に対応して、この『続 史上最大の暗殺軍団デンタルプラーク』が発刊されました。本書は、歯科衛生士によるデンタルプラーク細菌への対応が、歯や口腔の健康に留まることなく、全身の健康や生活の質の向上にもかかわっていることを、RCTや系統的レビューに裏打ちされた研究に基づいてわかりやすく解説しています。また近年、8020達成者が50%を超えましたが、そうしたいまこそ、高齢者の歯周病の予防が重要となっています。本書では、歯周病菌を含むデンタルプラーク細菌が、アルツハイマー病、脳卒中、大腸がんにかかわるといふ近年の臨床研究や基礎研究についてもやさしく紹介しています。

今後さらに歯科衛生士は、デンタルプラーク細菌が全身の健康にどのように関連しているかについて、適切な情報提供が求められます。口腔健康管理を担う専門家として、根拠と説得力のある支援を行ううえで、本書はきわめて重要かつ有用です。今後、多職種連携を円滑に効果的に進めていくためにも、そして歯科衛生士の専門性を深め、生活者への社会貢献度をさらに高めていくためにも、本書を熟読して活用されることを願ってやみません。